

# 東建パブリニュース

平成29年9月12日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成29年9月6日 産業新聞 P. 2

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

## ナスラック

# 制震フレーム 製造ライン新設

## 鉄骨アパート向け

**NK深谷工場  
投資額2億円**

【名古屋】建築構造躯体の製造やシステムキッチン販売を手掛けるナスラック（本社＝名古屋市中区丸の内2-1-33、左右田鑑穂社長）は、NK深谷工場（埼玉県深谷市）において、年内にも鉄骨アパート向けの制震フレーム製造ラインを新設する。親会社の東建コーポレーションで制震アパートの販売、開発が加速しており、課題となっていた供給能力の拡大に対応する。総投資額は約2億円。

東建コーポレーションは独自開発の「制震フレーム」と「高耐力フレーム」を使った高耐震性アパートの開発、販売を進めており、既存のシュールシリーズなど制震アパートを

中心に標準化が進展している。そのため制震フレーム、高耐力フレームともに高まる需要に対し生産能力が不足していることでライン新設を決めた。

新ラインは溶接ロボット4台、ハンドリン

グロポット1台で構成する。年内に設置を完了し、来年1月から本格稼働を予定している。現在、制震フレームはシュールシリーズは作業者4人で日当たり4枚を溶接、製作しているが、自動化で生産性を大幅に向上でき、月産生産能力は36棟（8世帯用）への拡大を見込む。高耐力フレームはシュール神戸工場、NK深谷工場が生産しているが、制震

フレームはNK深谷工場でのみ生産。新ラインでは高耐力フレームの生産も行い、全社的な効率的供給体制を構築する考えだ。

同社は本社に加え全国に営業拠点として12事業所（4支店・8営業所）、生産拠点として5工場を擁し建築構造躯体の生産、販売などをメインに手掛けている東建コーポレーショングループの有力企業。